

Dr. Robert Neil Butler

略式年譜

1927年1月21日

- ニューヨーク市に生まれる。

1934年(7歳)

- 両親の離婚後預けられた母方の祖父が急死。祖母との苦しい生活が始まる。

1949年(22歳)

コロンビア大学医学部を卒業し、1953年にMD(医学博士号)取得。専門は精神科。

1955年(28歳)

- National Institute of Mental Health(米国精神保健研究所)主任研究員となる。

1963年(36歳)

- 高齢者を対象とする心理療法である回想法(reminiscence, life review)を提唱。

1968年(41歳)

- 年齢差別を意味する「Ageism」という言葉を作る。

1969年(42歳)

- ナーシング・ホーム改革案の法制化に向けて取り組む。

1975年(48歳)

- National Institutes of Health内の組織としてNational Institute on Aging(国立老化研究所)が設立され、初代所長に任命される(～82年)。
- “Why Survive? Being Old in America” 刊行。

1976年(49歳)

- “Why Survive? Being Old in America” が、ピュリッツァー賞(一般ノンフィクション部門)を受賞。
- 再婚したマーナ・ルイス女史との共著“The New Love and Sex After 60”を刊行。

1978年(51歳)

- マーナ・ルイス女史とともに初来日。東京で開催された第11回 International Conference on Gerontology に参加。その後WHO主催により京都で開催された「老年問題に関する京都国際シンポジウム」に出席。基調講演を行う。

1982年(55歳)

- マウント・サイナイ医科大学に全米で初めて完全な老年医学部が設立され、初代学部長に任命される。
- ウィーンで開催された第1回「国連高齢化に関する世界会議」において中心的な役割を果たす。

1983年(56歳)

- ギルツブルクセミナーでは、毎年様々なテーマが取上げられるが、この年は「人口高齢化」がテーマとなり、そのキーワードはバトラー博士が提唱したProductive Agingであった。

1984年(57歳)

- 在日アメリカ大使館付属文化センター(アメリカンセンター)の依頼で来日し、東京と福岡でレクチャーを行う。

1987年(60歳)

- 朝日新聞社主催の国際シンポジウム「高齢化社会を考える」出席のため来日し、「可能性に富んだ新長寿時代」と題する基調講演を行う。当時の山之内製薬森岡茂夫社長との出会いから、日米共同で高齢問題の調査研究・教育・広報啓発機関を作るための、ILC構想が具体的に動き始める。

1990年(63歳)

- マウント・サイナイ医科大学内にILC米国を設立。理事長に就任。日本社会事業大学内にILC日本が設立され、初代理事長は伊部英男博士。設立総会出席のため来日。

1991年(64歳)

- 日米ILC設立記念シンポジウムのため来日。

1993年(66歳)

- 日米政府間の「高齢化に関する合同委員会」開催(ベセスダ)。
- 日米ILC初の共同事業として、ブダペストの国際老年学会における発表。

1994年(67歳)

- ジャパンソサエティとの共催による国際シンポジウム「活力ある高齢社会を目指して」をNYにて開催。
- 読売新聞創刊120周年記念の国際医療フォーラムにおける基調講演のため来日。

1995年(68歳)

- クリントン大統領主催の第4回「高齢化に関するホワイトハウス会議」の諮問委員会議長を務める。
- 「日米高齢化に関する合同委員会」専門家会議とシンポジウムのため来日(大阪)。
- イスラエルで開催された第2回IFA世界会議において基調講演を行う。

1996年(69歳)

- 宮崎で開催された「ねんりんピック」の国際シンポジウムにおいて基調講演を行う。

1997年(70歳)

- ILC4カ国共同シンポジウムを国連本部内のハマーショルド講堂にて開催。
- 日米ILCが共同事業としてメディアプロジェクトを実施、NYにおいて日米メディア会議が開催される。
- メディアプロジェクトの日本における報告会出席のため来日。
- 名古屋で開催された長寿科学振興財団主催の第10回国際シンポジウムにおいて基調講演を行う。

1998年(71歳)

- ILC米国が、マウント・サイナイ医科大学から独立し、NPOとなる。

2002年(75歳)

- マドリッドで開催された第2回「国連高齢化に関する世界会議」において、「高齢者の人権宣言」を行う。

2003年(76歳)

- 「米国の高齢者の人権とニーズの向上およびQOLの改善に貢献した」として、第10回ハインツ賞(Human Condition部門)受賞。

2004年(77歳)

- コロンビア大学250周年記念「偉大なコロンビア大学出身者250人」に選出される。
- 「国際アルツハイマー病協会第20回国際会議・京都・2004」においてビデオによる基調講演を行う。

2005年(78歳)

- ブッシュ政権下での第5回「高齢化に関するホワイトハウス会議」において閉会式のスピーチを行う。

2007年(80歳)

- サンフランシスコで開催された米国老年学会(GSA)60周年記念大会で基調講演を行う。

2008年(81歳)

- “The Longevity Revolution” 刊行。

2009年(82歳)

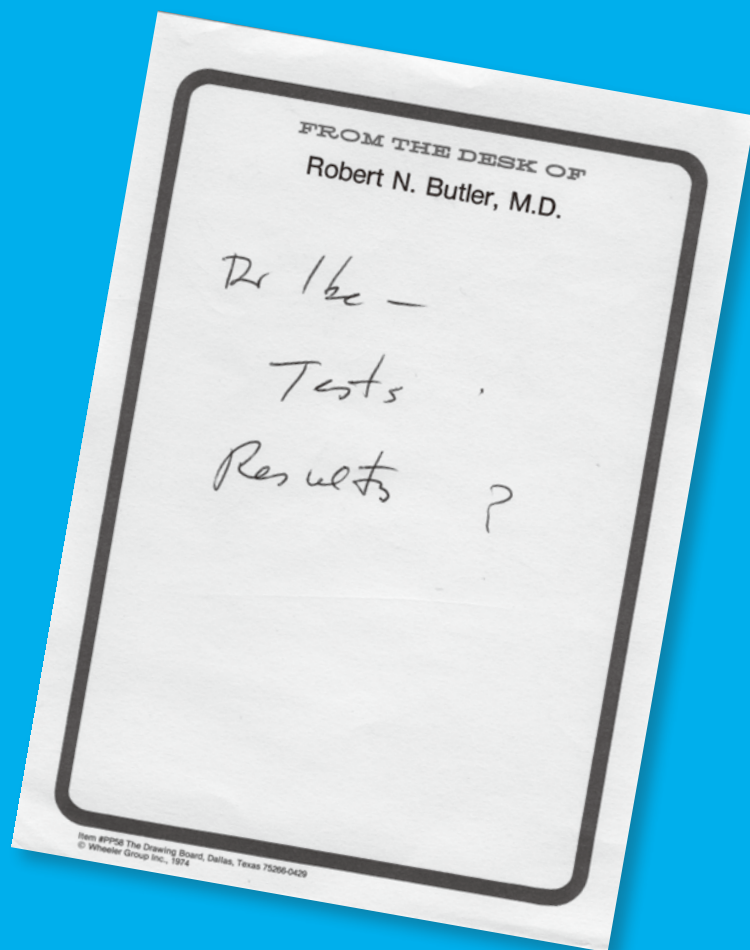
- ILC米国とコロンビア大学の共催で「アルツハイマーと高齢社会」賢人会議を開催。

2010年(83歳)

- コロンビア大学教授就任。
“The Longevity Prescription” 刊行。

2010年7月4日

- 逝去。



長寿社会グローバル・インフォメーション
ジャーナル

Volume **15** Winter 2010

2010年12月16日発行

発行：国際長寿センター (ILC-Japan)
〒105-8446
東京都港区虎ノ門3-8-21
虎ノ門33森ビル8F
TEL 03-5470-6767
FAX 03-5470-6768
E-mail ilcJapan@mba.sphere.ne.jp
URL <http://www.ilcJapan.org>

編集：株式会社青丹社
印刷：大日本印刷株式会社

本誌掲載の記事・写真・図表等の無断複写（コピー）・複製・
転載を禁じます。
Cover Photo：月刊『厚生』1997年12月号（中央法規出版株
式会社）より転載